

栃木医療センター 広報誌

No.53 2023 April

理 念
信 頼 貢 献 協 働



Contents

- 病院機能評価の更新認定について 1・2
- 診療科紹介（皮膚科） 3
- 病棟紹介（3階病棟） 4
- 部門紹介（薬剤部） 5
- 連携医紹介（宇都宮協立診療所） 6
- 日常でできる身近な感染防止対策／
交通のご案内 裏表紙

独立行政法人国立病院機構 栃木医療センター

病院機能評価の更新認定について



平成28（2016）年3月4日に病院機能評価の認定病院となった当院は、本来であれば、初回認定日から5年後の令和3（2021）年3月までに更新のための訪問審査を再受審すべきところ、令和元（2019）年12月、新型コロナウイルスが中国で初めて報告されて以降、世界的な大流行を引き起こしたことで、その対応に翻弄されることになりました。

当初、令和2（2020）年11月の再受審に向けて準備を進めていましたが、その直前まで続いた感染第2波の対応に病院スタッフが忙殺された結果、受審困難な状況となり1年後の令和3（2021）年11月に延期することになりました。しかし、コロナ禍が一向に終息せず、感染

拡大の波が繰り返される中、当院は、引き続きその対応に追われたことで再び受審が厳しくなり、訪問審査を翌令和4（2022）年11月に再延期することになりました。なお、このコロナ禍における特例措置による受審延期の猶予は最大2年までとなっていました、そのカードを使い切ってしまう、当院は神のみぞ知る1年後のコロナ感染動向にも左右されるという後のない状況に置かれることになったのです。

こうして当初予定していた訪問審査受審が2年遅れることになったほか、コロナ対応以外にも課題がありました。今回の訪問審査までの間、書面による期中審査は行われたものの、平成27（2015）年の最初の受審から7年経過し、職員の入れ替わりが進んで当時を知る経験者が少なくなったうえ、コロナ禍も重なって職員の病院機能評価に対する意識も希薄になっていると感じられたことです。

そんな中、昨年（2022）4月に新体制で訪問審査受審に向けて再スタートを切りましたが、手探りの状態で準備を進める過程で経験者からの助言は大変有り難いものでした。特に規程・マニュアルなどの書類や病院利用者のアメニティの整備には大いに参考となりました。また、本番を想定した模擬のケアプロセス調査や部署訪問にあたっては、多忙な中、多くのスタッフの協力を得られたと感じています。しかし、好事魔多しでコロナには

最後まで苦しめられ続け、訪問審査の前週になってスタッフからの陽性者発生もありましたが何とか受審にこぎ着けることができました。

訪問審査を無事に終え、令和5（2023）年3月10日に晴れて更新認定されました。ただし、認定期間は通知日から5年後の令和10（2028）年ではなく、特例措置による受審延期の2年を差し引いた3年後の令和8（2026）年3月3日までとなりました。期中審査も今年（2023）の実施となり、当院は更新認定に一喜一憂することなく医療の質向上に向けた取り組みを続けていかなければなりません。長文となりましたが、最後に協力して頂いた病院スタッフの方に御礼を申し上げて結びとさせていただきます。

病院機能評価の様子



当科の取り組み

栃木医療センターに入って2階にあがると、近くに皮膚科があります。総合病院の皮膚科というと特殊なところと思われる方もいらっしゃるかもしれませんが、当院の皮膚科では身近な病気から、手術を要する腫瘍や入院を要する感染症など、幅広く診療を行っています。

一番多くの方が受診されるのは、アトピー性皮膚炎や乾燥性皮膚炎など、皮膚にかゆいブツブツができる湿疹です。次に多いのが皮膚感染症です。皮膚は全身を覆う臓器で外界から体を守る役割があり、傷がつくと感染がおこります。細菌が入り込むと膿疱疹（トビヒ）や蜂窩織炎、また真菌が入りこむと足白癬などの病気がおこります。その他には、薬疹、熱傷や潰瘍なども皮膚科で扱うことが多い病気です。

皮膚は内臓の鏡であると、古くから言われていて、内臓疾患との関連をもつ皮膚病も少なくありません。当院では総合病院であることを活かして、エコー検査やCT・MRIなどの画像検査を行い、また他科と連携して皮膚だけでなく全身を診させていただくように心がけています。

近年、難治のアトピー性皮膚炎、尋常性乾癬などに対して、新しい治療法が開発されてきて治療がすすんできています。生物学的製剤などの分子標的治療薬がいくつも使えるようになっており、非常に効果が高いこともあり積極的に取り組んでいます。すべての方にお使いいただける治療法ではありませんが、これまでの治療ではなかなか良くならない皮膚病におかかりの方はご相談ください。

当院ではご近所のかかりつけの先生との連携を大事にしています。皮膚科でも当院で落ち着いた後は、かかりつけの先生に再びお通いいただけます。ご紹介状があれば大変スムーズですが、無くても受診いただくことはできます。当院で行った検査結果や診療経過を、かかりつけの先生と共有できるように心がけています。また当院でも難しい重症の方は責任をもって大学病院などの高次医療機関にご紹介させていただきます。何か皮膚のことでお困りの方はご受診ください。



3 階 病 棟

3階病棟看護師長 岡村 雅美

3階病棟は、急性心筋梗塞や心不全、呼吸不全や肺炎などの患者さんが入院されます。急性期は人工呼吸器や心電図モニター、多くの点滴による治療が行われます。入院に伴う患者さんの不安や緊張が軽減するよう、看護師はひとりひとりに合わせたオリエンテーションを行い、安全・安楽に検査・治療が受けられるよう援助を行っています。入院中は、患者さんの表情や顔色を確認しながら痛みやつらいことがないか声を掛け確認しています。看護師は病状の変化に迅速に対応できるよう、研修・勉強会・症例カンファレンスに参加し、スキルアップに努めています。

患者さんの年齢層は幅広く、年齢や病態によっては退院後の生活に不安を持つ患者さんも少なくありません。そのため、家族歴や既往歴、家族背景やキーパーソンの存在、職業や性格、入院前の生活環境やスタイルについて情報収集することを大切にしています。内服管理や食事管理には社会資源を活用したサポートが必要な方もいます。収集した情報を元に、患者さんの取り巻く環境を考慮して、これまでの生活スタイルを大きく崩さず、継続または実践可能な方法を一緒に考え、退院後の生活をイメージできるように、多職種でカンファレンスを行い患者さんに適した方法を検討しています。

看護師は患者さんへの援助を行ううえで、悩むことや迷うことも多々あります。そのような時にはチームカンファレンスを行い、専門的知識を持つ他職種と協力し合って、患者さんにとってよりよい看護が提供できるように努めています。

今後も関連する職種と連携して、患者さん・ご家族の思いに寄り添い、患者さんやご家族が「この病院に入院してよかった」と思っただけできるよう日々研鑽したいと思います。



部門紹介 薬剤部

意外なところに薬剤師 ～入院サポートセンター～

薬剤部 入院サポートセンター担当薬剤師 神谷 淳子

当院では、入院前から患者さんやご家族が安心して入院治療ができるように「入院サポートセンター」を開設しています。看護師や事務職員と共に医療チームの一員として、薬剤師も入院サポートセンターに配置されており、専門的な知識とスキルを活かして、他の医療チームと連携しながら患者さんに寄り添ったサポートを提供しています。

入院サポートセンターの薬剤師は、入院が決まった患者さんと面談を行い、現在服用しているお薬の種類や病歴、アレルギーや副作用歴の有無、適正使用などを確認しています。ご本人も不確かな場合は、関連する医療機関や、お薬を調剤している地域の保険薬局とも連携して可能な限り正確な情報の入手に努めています。また、服薬指導を行い薬の正しい使用方法や副作用についても説明しています。手術目的で入院する患者さんは、一時中止しなければならないお薬がある場合があり、特に慎重に説明しています。そのお薬の特定ができない場合や取り分けることが難しい場合もあり、お薬手帳などを介してかかりつけの保険薬局に協力をお願いしたりしています。さらにサプリメントや健康食品の中には医療用医薬品と飲み合わせが悪いものや、入院後の治療に影響を及ぼす成分が含まれている場合もあり、注意が必要です。入院後に治療を受けられる患者さんを具体的にイメージして、お薬に関しても必要な準備を行い、個別の状況を事前に共有することで、より安全な医療をスムーズに受けていただけるようにしています。

入院後は、病棟の薬剤師がお薬の投与状況や副作用の有無の確認を行い、医師や看護師と連携しながら患者さんの適切な薬物療法を支えています。また、患者さんの入院治療を支える専門医療チームも多くあります。入院サポートセンターの薬剤師が事前に提供した情報は、病棟の薬剤師のみならず他の医療チームでも入院中に安全で安心出来る薬物療法が継続出来るように有効に活用されます。

薬剤師の仕事は、ただお薬を調剤して患者さんに渡すだけではありません。患者さんの薬物療法を総合的に支援することが求められます。お薬の相互作用や副作用、食べ物とお薬の飲み合わせ、患者さんが抱える健康上の問題や退院後の生活を考慮し、患者さんひとりひとりの薬物療法が最適になるようにしています。入院サポートセンターの薬剤師は、病院の医療チームの一員として、入院前の段階から患者さんに寄り添ったサポートをしています。



◎患者さんへお願い

入院サポートセンターへお越しの際は、お薬手帳、おくすりの説明書、薬袋など、普段お使いになっているお薬がわかるもの（術前休止薬も含む）をご用意ください。また、市販のお薬や健康食品、サプリメントをお使いの場合はお申し出ください。



◎開業医の先生方、その他医療機関の先生方へお願い

入院サポートセンターの薬剤師より問い合わせをさせて頂く場合がございます。その際は、ご対応のほど何卒よろしくお願い致します。

宇都宮協立診療所

所長 軽部 憲彦

宇都宮協立診療所は、1975年10月に宇都宮市宝木団地の一角に開院した19床の入院設備を備えた有床診療所です。2003年11月、同地区に移転しました。法人である栃木保健医療生活協同組合は、当院と生協ふたば診療所の2つの診療所、訪問看護ステーション、デイサービス、訪問介護、居宅支援事業所など医療・福祉・介護事業を運営しています。

医療福祉生協は、地域住民が出資・利用し、運営に参加する組織です。地域で住み続けられる安心のまちづくり、健康づくりを行うために、組合員と職員がともに協力し、健康教室や健康体操、さまざまな趣味の集まり、地域訪問活動、社会保障制度の充実のための活動を広げています。

当院は、内科、小児科を中心に幅広い疾患に対応する総合内科系の医師が多数在籍しています。特に、在宅医療に力を入れ、市内を中心に約500名の患者を24時間体制で対応しています。認知症、神経難病、がん末期、非がん疾患の末期など様々な患者の対応に限らず、社会的、精神的な問題を抱えた複雑困難な方への対応も迅速に行っています。

また、有床診療所の特色を生かし、レスパイト入院、末期患者の緩和ケア入院、糖尿病教育入院などを受け入れています。

栃木医療センターとは、日頃から入院紹介や連携カンファレンスなどを通して、大変お世話になっています。また、栃木医療センターの家庭医療専門医プログラムや総合診療専門医プログラムに当院も参加し、プログラムの専攻医が、在宅医療や診療所外来を学ぶフィールドとして活躍しています。他にも、獨協医大などの初期研修医の地域医療研修や高校生医療体験を積極的に受け入れ、地域医療に貢献する医療者を育て、支援しています。

当院は、全日本民主医療機関連合会（民医連）に加盟し、「無差別平等の医療・福祉」をモットーに、2012年から「無料低額診療事業」を開始しています。

無料低額診療制度とは、社会福祉法の規定に基づき、医療費の支払いが困難な方に医療費減免を行う制度です。これまでも、失業中、ホームレス、ネットカフェ難民、低所得、DV被害者、外国人の方などの相談に応じ、制度の利用と共に、公的な制度や社会資源の活用、生活改善のサポートをしてきました。

社会保障制度や医療介護制度の狭間の中で困難を抱えている方々が多くいます。そのような方々に寄り添い、サポートしていくことが、この地域の中で当院が果たす役割であると考えています。栃木医療センターをはじめ地域の医療機関や介護事業所、公的機関やNPO団体などと連携協力しながら、宇都宮市や栃木県をよりよい地域にしていきたいと思います。



ご案内

診療時間	月	火	水	木	金	土	日
9:00 ~ 11:45	●	●	●	●	●	●	×
15:00 ~ 18:00	●	●注	×	●	●注	×	×

※電話での診療予約はできませんので、来院時に窓口をお願いします。（予約の変更は電話でも承ります。）

※受付開始時間は、朝8:30頃から、午後は2:30頃からとなります。

※予約の変更や診療時間、検査のお問い合わせは、平日朝9:00から午後7:00の間をお願いします。

※注）火・金は午後4:30で受付が終了しますのでお気を付けください。



◎ 日常でできる身近な感染防止対策 ◎

★正しい手指衛生の方法（①石鹸流水での手洗い ②アルコールによる手指消毒）

- ＜方法＞ ①手洗いは流水で手を濡らし石けんで泡を立ててから手のひら、手の甲、指の間、親指、爪先、手首を30秒かけて擦り洗います。
②アルコール消毒は最初に爪先をつけてまんべんなく消毒剤が乾燥するまで手全体に擦りこむ。

＜タイミング＞ 帰宅時、食事の前、咳やくしゃみが手に付いた時、手が汚れた時など



★正しいマスクの使用方法

- ＜着け方＞ 顔とマスクとの隙間がないように、鼻・頬・顎に合わせて鼻・口を覆う。
＜着用中＞ マスク表面にはなるべく触れないようにする。
会話をするときにはマスクを外さない。
＜外し方＞ ゴムの部分を持って耳から外し、マスク本体に触れないように捨てる。

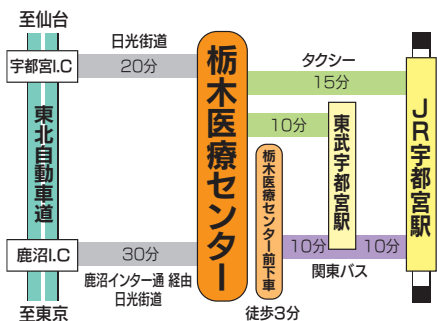


★咳エチケット

※外出する際にはマスクを着用する。

マスクを着用していない場合に咳・くしゃみをする際にはティッシュなどで口と鼻を押さえ、ほかの人から顔をそむけ1m以上離れる。

交通のご案内



発行人

独立行政法人国立病院機構

栃木医療センター

院長 田村 明彦

〒320-8580

栃木県宇都宮市中戸祭1-10-37

TEL. 028-622-5241

FAX. 028-625-2718

URL. <https://tochigi.hosp.go.jp/>

